



たんぽぽ



幌別小学校ことばの教室

2024年4月1日 No.1

3月も例年より、暖かく穏やかな日々をすごすことができました。新芽が芽吹き、つぼみも膨らみ気持ちウキウキ気分になりますね。新しい年度の始まりは、誰もが「よし、やるぞ!」と新たな気持ちにさせられます。今年度も、ことばの教室へのご理解ご協力を宜しく申し上げます。

新しいお友だち

・4歳の女の子が通級します。
よろしく申し上げます。



◎行事予定

- 1日(月) 保護者面談開始
- 8日(月) 幌別小学校始業式
- 9日(火) 幌別小学校入学式
- 18日(木) 三歳児健診
- 25日(木) 教育相談



◎指導開始について

- ・小学部
 - * 2年生から6年生は、4月15日から開始です。
 - * 1年生は、4月23日から開始です。
 - * 小学部は、原則週1回の通級になります。
- ・幼児部
 - 4月15日から開始です。
 - * 幼児部は、原則月2回の通級になります。(4月は1回となります。)

◎保護者面談について

- ・小学部 ・幼児部
- 4月1日(月)～4月12日(金)
- の期間の中で保護者面談を行います。今年度の指導方針や通級に関する確認等を行います。曜日や時間帯は、各担当者と調整していきます。よろしく願いいたします。



◎駐車場について

- ・ことばの教室専用の駐車場に、三角コーンが常設されます。来校されましたら、ずらして駐車してください。お帰りの際には、三角コーンを元の場所に戻されますよう、お願いいたします。



◎職員紹介

本年度も4名体制で頑張っていきます。宜しく願いいたします。



いずみのやすひと
小学部: 泉野 泰人

うじえのぶみ
小学部: 氏家野富美

すどうかずえ
幼児部: 須藤和恵

さとうれいこ
幼児部: 佐藤玲子

本との出会い

「ヤバイ」、「エグイ」「キモイ」、だけで表現する子どもたちと多く出会う中で、ある日、この本と出会いました。石井さんはルポライターなので、直接、子どもたちに出会い、直接、子どもたちの声（言葉）を聞いて、今の子どもたちに感じることもあり、この本を著作されたようです。語彙の少ない子どもたち（犯罪、非行、いじめ、不登校、他）。子どもたちに語彙を増やすのは知識からではなく、五感を使った本物の体験から感受性を育てること、そこから語彙が増え、その語彙を使って気持の表現（感情の表現＝感情のコントロール）ができるようになっていく。序章からすぐに引きつけられ、何人もの人に紹介した1冊です。（須藤）

『 誰が国語力を殺すのか 』

著：石井光太（ルポライター）

※「序章」よりの抜粋

○国語力とは何か

- ・「国語力」とは、「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」の四つの中核からなる能力としている。
- ・語彙を増やすのと同時に育てていくのが「情緒力」や「想像力」。
情緒力とは、他者や自然から美しさ、悲しみ、もののあわれを感じ取り、理解する能力。
想像力は、未知のものをイメージしたり、他者の表情や動きから言外の感情を読み取ったりする能力。
- ・物事を細部まで感じ取るためには、豊富な言葉が必要。
- ・多彩な表現をすることで感情のグラデーション化をさせる。それにより、自分の感情や、相手の心の機微を知覚できるようになる。
- ・想像力も、語彙力と密接に結びついている。
- ・当事者意識をもって考えるには、ことばを巧みにつかい分け、自分だけでなく他者の感情も想見する力が不可欠。
- ・国語力を高めることがより良く生きる力を育むとしているのは、将来的にそれが全人格な力となるからだ。
- ・国語力とは、社会という荒波に向かって漕ぎ出すのに必要な「心の船」だ。語彙という名の燃料によって、情緒力、想像力、論理的思考力をフル回転させ適切な方向にコントロールするからこそ大海を渡ることができる。
- ・国語力は、学問だけではなく人間が生きていく上であらゆることの基礎となる力だと思う。
- ・本物の体験を通して感受性を育てる。
単なる知識の暗記ではなく、体験を通して肌で感じること。
子どもたちはこうしたことをくり返すことで、日々全身の感覚が刺激され、想像力や意欲が広がり、やがて大人が予想しえない方向へ関心を広げていく。
五感を開いてあらゆることを知覚し、想像する力を養わなければ、物事を適切に表現することはできない。

※以下1章から8章へと続く